

コルザ

コルザはフランス語で「菜の花」

2018
12月号
No. 401



虹いろフェスタ 2018

目次

特集 虹いろフェスタ 2018	2・3	せっけんでシンプルおそうじ!	4	こども食堂基金	5
活動ファイル	6・7				
3.11 その後 「わくわくエンジン」をかける!		タネはだれのもの?		子ども達に寄り添って	
ブロック活動ファイル	8・9				
エコロコーディネーター始動!		正しく知ろう、放射能汚染		油3品 de 贅沢天ぷら&秋のつどい	
モチリ玄米おいしい!		冬ギフト試食会&秋のつどい		センター市原展示会	
千葉グループ&JFSA お知らせ	10-13				
生活クラブ風の村 VAIC-CCI		NPOクラブ UWN		ちば せっけんの街 JFSA	
イベント・情報	14	夢風ニュース/申込書	15	12月のデポー	16

組合員の皆さんに10月理事会の報告をします。

1. 「ゲノム編集技術の利用により得られた生物のカルタヘナ法上の整理及び取扱方針について(案)」に関するパブリックコメントを提出しました。
2. 遺伝子組み換え表示制度に係る「食品表示基準の一部を改正9月の組織報告 総供給高 631,641,690円

総組合員数 42,736人(班4,969人 個別20,907人 デポー11,940人 経済共済4,920人)

3. 映画『いただきます』の上映イベントを12月8日(土)に流山市のおおたかの森センターで行います。「食育」について学び、生活クラブ虹の街が取り組む保育事業を広く伝える機会とします。
4. デポー松葉町で県立特別支援流山高等学校の生徒の職場体験を受け入れます。期間は10月29日~11月9日の2週間です。

発行/生活クラブ虹の街 発行責任者/木村庸子 編集/組織部

虹の街 Facebookはこちらから→

〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-21-12 tel 043-278-7671 fax 043-279-7490 <http://chiba.seikatsuclub.coop/>

★本紙は、古紙再生紙、ベジタブルインキ、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。UDFONT



本部 043・278・7671/センター柏 04・7134・3801/センター千葉 043・278・7629/センター佐倉 043・461・7868
センター松戸 047・385・4646/センター市原 0436・60・1583/センターベイ 047・379・1540/デポー真砂 043・278・0112
デポーみつわ台 043・287・2414/デポー新松戸 047・348・1210/デポー大津ヶ丘 04・7191・7359/デポー松葉町 04・7134・0697
デポー浦安 047・353・0135/デポー木刈 0476・40・6811/デポー園生 043・290・0090/デポーおおたかの森 04・7155・5505

3.11 その後

9月28日、習志野商工会議所大会議室にて、講演会「3.11 その後～子どもたちへの影響とエネルギーの未来～」を環境委員会が開催し、44人が参加しました。講師は、3.11 甲状腺がん子ども基金代表理事の崎山比早子さんと、飯館電力(株)取締役の千葉訓道さん。

医師で元放射線医学総合研究所主任研究官の崎山さんは、「福島県で行われて



いる県民健康調査では、実際に子どもの甲状腺がんが多数見つかっています(手術の結果164人ががんと確定。第32回検討委員会発表)が、県民健康調査検討委員会では、それらが福島原発事故由来とはまだ認めていません。検討委員会のメンバーである専門家らは、自ら決めたスタンダードを基準にして安全論をおしすすめています。私たちは、それにだまされなくてちゃんとやっていかなくては」と被ばくの影響を受けやすい子どもたちに対する大人の立場を再確認します。

私たちが暮らす千葉県でも3.11由来と思われる甲状腺がんが見つかり、実際に3.11 甲状腺がん子ども基金から4件の給付が実施されています(2018年3月発表)。「過剰診断が子どもの人権を阻害する」という理由のもと健康調査を縮小する流れもあり、今後の動向が気になります。

福島在住の千葉さんは、福島の現状について話しました。「飯館電力(株)は、その全域が計画的避難区域に指定されていた福島県飯館村(2017年に一部を除き解除)にあり、先祖代々大切に守ってきた土地が放射能によって汚染され、未来に何を残せるかを考えた時に、再生可能エネルギーの道を選びました。飯館電力で



は、太陽光発電やソーラーシェアリングなどを地元の人たちが中心となって建設・運営し、生活クラブでんきに供給する電気の生産者でもあります」と言う千葉さんから、熱い思いが伝わりました。エネルギーも消費材と同じように生産者の顔が見える電気を使っていきたいと思いました。

最後に環境委員の東條絵美さんが、2012年から取り組んでいる全国の生活クラブの甲状腺検査活動について報告しました。毎年の検査結果の分析は道北勤医協・旭川北医院長の松崎道幸さんが監修されています。

リフレッシュツアーも含めて、少なくとも2020年まで続きます。カンパ活動など、皆さんのご協力をよろしくお願いします。環境委員 畔上久美

「わくわくエンジン。」をかける！

10月13日、習志野商工会議所で生活クラブ千葉グループ主催NPOちばこどもおうえんだん協賛で『「わくわくエンジン」をかける！子どものやる気をひきだす 夢！自分！発見プログラム』を開催。組合員・千葉グループ・講演者の会員・社会協議会など101人が参加しました。

進行は、川崎市の認定NPOキーパーソン21代表の朝山あつきさんと社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんの講演に続き、講師のお二人と(社)生活クラブ風の村理事長で生活クラブ千葉グループ共同代表の池田徹さんの座談会。

千葉グループは今年度方針で子ども安心システムを掲げ、社会的養護の推進活動を支援しています。今回、子どもたちの夢の実現に向け自分を活かして生きるためのキャリア教育プログラムを展開している朝山さんの話を聞き、興味関心を抱いた人たちを中心に今後千葉でも活動展開に繋げる機会にするのが目的です。

朝山さんは、子育て中の出来事が



左から、木村さん 湯浅さん 朝山さん 池田さん

きっかけで子どもにもっと将来の仕事や生き方を考えて欲しいと2000年にNPOを設立しプログラムを開発。自分が何者であるかを知り語る力を持ち、自分がわくわくするものを見つけ、社会との繋がりを感じ、協働*のコミュニケーションを通じ自立し、尊い未来に向けていくよう、ゲーム形式やグループ形式のワークを通して子どもが「わくわくエンジン」(自分の原動力となる言葉)を発見します。大人たちは考えや概念を押し付けず教えず、ひたすら子どもたちの思いを引き出し認め伴走します。「わくわくエンジン」を発見した中学生のエピソードも交え、朝山さんの笑顔とパワフルな話に会場がどんどん引き込まれていきました。

湯浅さんは「現在の社会状況下でいわゆる普通の人は何人いるのか、人はそれぞれ多様な個性を持ち(凸と凹と称した説明が面白かった)生き、普通に生きるにも辛さがある。議論と会話と対話は違う、他者に好意的な好奇心を持ち対話することが世の中との繋がり方であり、わくわくエンジンの発見は社会に必要」とまとめました。

アンケートには「自分の子育てや仕事に役立てたい」「地域の子どもたちにも気持ちを寄せていきたい」等。講演が好評だったことが伺えます。

11月28日に千葉での準備会を予定し、各方面の方20人以上が参加を希望。「わくわくエンジン」を発見し、生きる力をつけられるよう、千葉の大人たちがサポートしていければと願います。 理事長 木村庸子

*協働：複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること